

外国人研究者ら 舞鶴の秋を堪能

シンポジウム参加者「抹茶、思ったより苦くない」

舞鶴市浜の市商工センターで開かれている第6回国際異体類生態学

シンポジウム(21～25日)に参加した海外の研究者や家族4人が22日、

「市内観光ツアー」で日本の秋の風情を堪能した。



初めての抹茶の味を楽しむ参加者たち

舞鶴市余部上の舞鶴ハウスで

同シンポは、3年に1度、ヒラメやカレイなどの研究が盛んな国で開かれており、日本では初めて。今回は米国やアイルランドなど国内外から計23カ国から約140人の研究者が参加している。

観光ツアーの一行は、市総合文化会館(浜)で行われた「芸能祭」で日本舞踊や邦楽などを見た後、赤れんが博物館、五老スカイタワーなどを見学し、本格的な茶の湯も体験した。

アイルランドからの女性研究者ポーリン・キングさんは「日本の伝統文化を味わいたいと思っていたので楽しかった。抹茶は思ったより苦くなかった」と笑いながら話した。

同シンポでは、一般向けの講演会「海の生きものとの未来―共存の道を探る」が23日午後2時から、市商工センターで開かれる。参加無料。問い合わせは、京都大学舞鶴水産実験所(0773・62・5512)。

【安藤龍朗】